

## 総合的な学習の時間を核とした小学校におけるキャリア教育の展開

～ キャリア教育の視点を取り入れた単元構想とポートフォリオの活用を通して～

福島県教育センター 長期研究員 奥山 吉範

### 1 研究の趣旨

福島県教育センターによる『平成18年度ふくしまの学習意識に関する調査結果報告書』の「学習する目的意識」に関する小学校の結果を見てみると、「テストでよい点数を取りたいから」の割合が一番高く、「将来、就きたい職業に役立てたいから」の割合は低い。また、「将来、社会や人の役に立ちたいから」の割合はどの校種においても低い。本来、学習は将来生きていくために必要な力を身に付けるためのものであり、小学校段階からキャリア教育を取り入れていく意義の一つは、この現状の改善にあると言える。

平成18年11月に文部科学省より出された『キャリア教育推進の手引き』によると、キャリア教育は、全教育活動を通して、実践的・体験的な学習活動を中核として発達段階に応じて進めることが重要であると示されている。

そこで、本研究では、各教科・領域との関連を図りながら実践的・体験的な学習活動を展開できる総合的な学習の時間に焦点を当て、キャリア教育の視点を取り入れた活動を通して、小学校におけるキャリア教育の展開の在り方を探っていきたいと考えた。

研究を進めるに当たっては、次のような仮説を設定した。

総合的な学習の時間において、キャリア教育の視点に基づいて各教科・領域との関連を図った単元構想を作成・実践し、ポートフォリオの工夫とその効果的な活用を図っていけば、学ぶことの意味を社会や将来との関係からとらえさせることができ、児童のキャリア発達を促すことができるであろう。

### 2 研究の概要

#### (1) キャリア教育の視点を取り入れた単元構想の作成と授業実践

総合的な学習の時間のねらいをキャリア発達の視点からとらえる。

各時間に身に付けさせたい能力を単元指導計画に明示し、授業を実践する。

関連がある各教科・領域を単元指導計画に位置付ける。

#### (2) ポートフォリオの工夫と効果的な活用

キャリア教育で求められている諸能力の発達や教科・領域との関連を図り、児童自身が自己成長を実感できるようポートフォリオ用のワークシートを工夫する。

ポートフォリオの各教科・領域への積極的活用と児童の変容や成長の度合いを把握する指標として活用する。

#### (3) 検証方法

教師のキャリア発達を意識した発問と児童の反応の記録の分析

事前・事後アンケートで児童・教師の意識面での変化を数値化・グラフ化して分析

ポートフォリオで児童の変容を把握し、キャリア発達の全体的な傾向を分析

### 3 成果と今後の課題

#### (1) 成果

単元指導計画に育てたい能力を位置付けることで、総合的な学習の時間のねらいが明確なものになり、教材のとらえ方や児童の成長の見取り方がより社会や将来を意識したものとなった。

関連がある各教科・領域を単元指導計画に位置付けて実践したことで、児童自身が実体験をもとに教科の学習ができるようになった。

ポートフォリオの工夫については、教師の側からとらえた場合、毎時間一貫してルーブリック評価を用いた振り返りの設問を設けたことによって、変容を量的に把握して次の指導に生かすことができた。また、児童の側からとらえた場合、自らの成長の足跡を振り返り、これからの歩みを考えるという役割を果たすことができた。

以上の～から、学ぶことの意味を社会や将来との関係からとらえさせ、児童のキャリア発達を促すために、今回のキャリア教育の展開の在り方は有効であったと言える。

#### (2) 課題

キャリア発達を促し、変容を把握できるように工夫したワークシートをポートフォリオの中心として活用してきたが、ワークシート以外のポートフォリオについても、キャリア発達を促す要素を盛り込むことにより、さらに活用の幅を広げていく必要がある。

将来の生き方や社会の一員となるということについて考えさせるためには地域社会の果たす役割は大きい。また、児童にとって最も身近な大人である親や家族のいる家庭においても、将来を意識しながら児童と話す機会を持つことが大事になってくる。今後、将来や社会との結び付きを深めていくために、地域や家庭との連携の在り方を考えていかなければならない。